

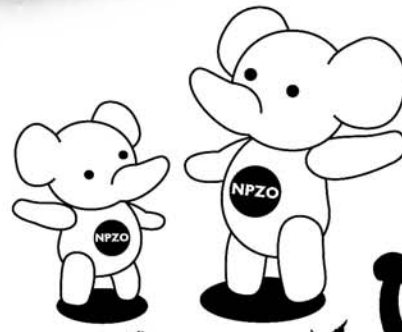
ピックアップ

市民の手作り 「能代ミュージカル」 子どもたちの居場所 「能代ミュージカル・キッズ」

- 元気創造企業
能代運輸株式会社
- 地域の元気創造
中学生が考える「企業の社会貢献」
- 憩うところ「サロン『あんず』」
- 情報あらかると
- 「NPO法人会計基準」について
- 「新しい公共と協働」推進行動指針(素案)について

んずな

11
2010



市民の手作り 「能代ミュージカル」



1980年(昭和55年)に能代市文化会館のこけらおとし公演としてはじまった能代ミュージカルは、能代の歴史や伝説、世相を題材にした市民参加型の創作ミュージカルで、多くの市民の参加と応援により今年30周年を迎えました。今年2月に行われた「能代物語第29話 能代さ医者来い物語」では、地域医療が抱える問題をテーマとし、1100人も市民に一石を投じました。また、今年8月の30周年記念特別公演「メモリーズコンサート」では、毎回(1公演7~8曲)作り上げられてきた200曲を越えるオリジナル曲から厳選した27曲による歌や踊りの再演、地域の合唱団等の出演協力により多くの市民を魅了させました。この十数年は能代市長も一幕に出演して舞台作りを共有しています。NPO法人能代市芸術文化協会・能代ミュージカル制作委員会の主催。1991年に能代市特別功労賞受賞、1992年には地域づくり表彰国土庁長官賞を受賞しています。



脚本・演出を
担当する伊藤さん

能代ミュージカル制作委員会の委員で立ち上げ当初から係わり、脚本・演出を担当してきた伊藤洋文さんは、脚本からスタッフ・キャストまで毎回200人前後の市民が参加し、すべて手作りというのは能代ミュージカルが先駆けとなっていることや、1年弱という短い公演準備期間で穴も開けずに上演できたことを奇跡的としながら30年を振り返ります。出演者が養護教諭だったことから養護学校の生

徒たちによるミュージカルの実現、三世代で参加している人、ミュージカルをきっかけに結婚する人など、ミュージカルに係わった人たちのつながりを感じ深く話していました。

市民に感動と情熱を伝え続けている能代ミュージカル。これからも継続していくためには、後継者の育成、予算の確保など課題解決に向けた取り組みが必要となっています。

NPO法人能代市芸術文化協会

(会長/宮川孝一)

TEL.0185-54-9298

能代ミュージカル制作委員会

(委員長/田村昭夫)

TEL.0185-54-8141



「能代物語第29話 能代さ医者来い物語」の一場面より(写真上下)

子どもたちの居場所 「能代ミュージカル・キッズ」



1993年(平成5年)に設立された能代ミュージカル・キッズは、小学1年から高校3年までを対象に月1度の定例会、能代ミュージカルへの出演(年1回)、能代山本郡合唱祭への出演(年1回)、キッズとしての公演(隔年1回)は2009年8月に行われた「16才の夏」まで8回公演されています。今年8月には能代ミュージカルの30周年記念「メモリーズコンサート」に、能代ミュージカル・キッズも過去に公演した中から選曲し、場面を再現しながら出演しました。

子どもたちの表現の場をつくり続けてきた代表の今立善子さんは、子どもたちの成長と、子どもたちと共に成長するキッズのパパママの掛け替えのないがんばりに大きな喜びと感動を覚えています。今立さんは、67歳とは思えないほどの元気と明るさを持ち合わせています。中学2年の時にてんかんの発作が起こり、ふさがちでいじめも受けた思春期、社会に出て味わった倒産による修羅場や親の介護を経験する中で、時々に出会う人たちが「明るく笑顔で」励ましてくれたこと、明るくひたむきに一生懸命生きていること、笑顔が苦しさを和らげてくれることを学んできました。演劇との出会いも生きる力となっています。これらの経験が子どもたちとの結びつきを深めています。

キッズの活動では子どもたちと共有する時間の中で自然と家庭が見えてきます。今立さんは「どんな困難な時でも忙しい時でも明るく元気に頑張っている母の姿は、子どもたちの道しるべとなっている」言葉が乱れていくときは家庭に不安がある」と感じ、親子関係について考えさせられることや子どもたちから教わることも多いそうです。

キッズの子どもたちは、今立さんのような地域の大人や



メモリーズコンサートで再演した「創作 浅内番楽」(写真上)と「べらんぼう能代風」(下)の様子

異年齢の子どもたちとの係わりから人間力を育てています。また、小学生は「セリフをもらえるようになりたい」と中高生を目標にし、中高生は大人と対等にキャスティングされることをめざして毎日を生きています。

現在、時代の流れや少子化の影響は会員の減少となって現れています。設立当時90人もいた子どもたちは今では36人に減少。今立さんは、子どもが明るく何でも話せる居場所となっているキッズの活動が続いていくことを願い、今後の運営方法を模索しています。

能代ミュージカル・キッズ

(代表/今立善子)

TEL & FAX.0185-55-1424



善婆(ぜんばば)を演じる代表の今立さん

エコドライブ、社有林の育成により CO₂削減に取り組む

能代市に本社を置く能代運輸株式会社は、運送のほか、港湾荷役、倉庫業、通関業、船舶代理店等を行っています。経営理念に「お客様に信頼される会社」「地域とともに繁栄し、社会に貢献する企業」を掲げ、地域に必要とされる会社をめざしています。

毎年お盆前に、取引先、トラック協会関係者へ参加をお願いし「安全特別講習会」を開催し、社員の安全意識を高め、地域の安全向上に努めています。また、白神山地、風の松原など自然豊かな環境の中で事業を展開していることから、地球温暖化などの環境問題に考慮して、エコドライブ、アイドリングストップによる燃料の削減、廃棄物の適正処理とリ

サイクル、コピー用紙の削減、社員への環境保全に関する教育などを実施しています。運行車輛から排出されるCO₂を吸収するために6年前から社有林を育成しています。育成は、原木輸送を会社で行っていることから林業技術の資格を持った社員が専門性を生かして行っています。

清掃活動としては会社周辺の定期クリーンアップ（2～3ヶ月に一度）の実施、能代港まつり大会前の能代清港会※クリーンアップ、風の松原を守る市民ボランティア大会、秋田県トラック協会主催クリーンアップなどへ参加しています。そのほか地域行事への参加、中学・高校生の会社見学の受け入れなども行っています。今年10月には、能代東中学校



毎年行われている安全特別講習会

地域の元気創造

中学生が考える「企業の社

能代東中学校の3年生が授業の中で、企業の社会貢献のプランを具体的に考えることにより、企業が消費者や地域社会にどのようなことを大切にして行動しなければならないかを考えました。

事前に全国や秋田の企業の社会貢献を学んだ生徒たちは、モデル企業として能代運輸株式会社の事業内容から、会社ができる社会貢献活動を考え、グループに分かれてさらに貢献内容を具体化しました。今回の特徴は、地域ゲストとして地域で「ボランティア活動をしている方」や「ボランティア活動をしている団体と係わっている方」6名がグループに入り貢献内容をより深めたこと、モデル企業となった能代運輸株式会社の方が参加し貢献内容についての企業の率直な声を生徒たちに伝えられたことです。

先生の「企業がどのようなことを大切にして行動しなければならないか」の問いに、生徒たちは「利益ばかりを考えず、良心（公共心）が大切」「社会をよりよくしたい」「地域のために役立つ」という気持ちが必要「人に迷惑をかけることが大切」「（社会貢献を自ら）積極的にやる」「まわりとのつながりが大切」「世界にも積極的に貢献する」など企業が社会の一員として必要な視点をしっかりと捉えていました。

最後に能代運輸株式会社総務課の松橋貢さんは、生徒たちの発表に対して「自社の貢献活動の参考になる」と高く評価し、企業の社会的責任として「自社では常に『社会から必要とされる仕事をしているか』を考えている」と話しました。

今回の取り組みを通して、生徒たちが企業の社会貢献について理解を深めたほか、企業とNPO等がお互いの活動を知るよい機会にもなりました。

今後、企業とNPO等の協働の取り組みを見出すためには、お互いを知る機会を増やしていく必要があるようです。



子どもの芸術体験広場を開催している大山博子さんは「（地域の）芸術作品をトラックで全国に運ぶ」グループ



ごみナビボランティアの活陽子さんは「海の清掃」



社有林の育成によりCO₂を吸収

の授業「企業の社会貢献活動」※の地域ゲストを務めました。

今後も「地域環境と共生する物流企業」として環境負荷の削減に取り組んでいくそうです。



能代運輸株式会社

(代表取締役／與語 忠道)

能代市河戸川字北西山144-2

TEL.0185-55-1222

※能代清港会とは、能代港を利用する企業等で組織された団体です。
※能代東中学校の授業「企業の社会貢献活動」については下記をご覧ください。

社会貢献」



活動をしている高橋グループ



生徒たちが考えた10種類の社会貢献活動を今後生かそうとメモする能代運輸株式会社の松橋さん

憩うところ

ひとりで過ごすのもなんだか寂しいとき、だれかと話したくなるとき、みんなでいるとほっとするときがあります。人と人がふれあい、つながる場所。

サロン「あんず」

北秋田市交流センター内で毎週金曜日に行われているサロン「あんず」は、精神に障がいのある方たちがお茶やコーヒーを飲みながら多くの方たちと交流できる場所として2000年にオープンしました。サロンを運営しているのは、精神保健福祉ボランティア「れもんの会」(会員17名)で、毎週10名前後の会員が集まります。れもんの会は、精神障がいについての理解を社会的に広めたいという思いの方が会員となり、サロン運営のほか、NPO法人あんずのみなさんとの昼食交流会、お楽しみ会を開催しています。また、自殺予防電話相談事業「電話相談センター『れもん』」を実施し、サロンに出向いて相談できない人のために、無料電話で悩みごとの相談を受け、必要に応じて関係機関への橋渡しを行っています。

代表の小坂和子さんは音楽がもつ力を生かして、これまでにアコーディオンによる演奏会などを行ってきました。来年3月には「いのちのコンサート」を開催する予定です。音楽、朗読、演劇などの活動をしている小坂さんを支えているのは会員のみなさんです。小坂さんは「信頼できる仲間」と話します。毎週行われるサロンの運営に会員のみなさんは、強い使命感を持ってサロンに関わり、研修等にも積極的に参加しています。

小坂さんは「サロンが心の悩みを抱えている方や、若い人の自立支援のためにも役に立てれば」と願っています。

精神保健福祉ボランティア「れもんの会」

(代表／小坂和子) TEL.0186-62-2625

サロン「あんず」

【日時】毎週金曜日11:00～14:00

【会場】北秋田市交流センター

電話相談センター「れもん」 TEL.0800-800-8156

【受付時間】(月)～(金)10:00～18:00

※土日、祝日と年末年始は除きます。

※ただし、緊急の場合は、その限りではありません。



情報あらかると

イベント情報

鹿角市 ものづくり作品展

【日時】11月19日(金)～11月23日(火)
10:00～17:00

【会場】関善賑わい屋敷(鹿角市花輪)

【内容】鹿角を中心とした工芸職人14人の作品展

【入場料】無料

※館内見学の場合は300円

☎ NPO関善賑わい屋敷(主催)

TEL.0186-23-7799

秋田市 秋田県及び秋田市 ボランティア・市民活動「特別研修会」明日に向かって(伝える…そして、つなげる)

<第1部>

【日時】11月20日(土)10:00～12:30

【会場】秋田市中央公民館(秋田市文化会館)5F学習室1

【内容】お話し「ボランティア活動と人間の生き方」特別弁士に佐々木照子さん(ボランティア活動推進国際協議会理事)、鼎談「どうなるーボランティア・市民活動への理解」

【参加費】無料※参加自由

<第2部>

【日時】11月20日(土)13:30～16:00

【会場】秋田市民交流プラザALVE(アルヴェ)1F音楽交流室D

【内容】「NPO法人会計基準を考える」説明会 特別弁士に早坂毅さん(税理士)

【参加費】1,000円(資料代)

【定員】30名※定員になり次第締切

☎ 申込:秋田県ボランティア団体連絡協議会(主催)TEL.018-864-2799

秋田市ボランティア連絡協議会(主催)

TEL.018-862-9774

北秋田市 企業の社会貢献活動ってなあに?

【日時】11月19日(金)13:30～15:50

【会場】北秋田市文化会館(北秋田市)

【内容】CSRについて学びます。講師は武内伸文氏(SiNG代表、武内印刷株式会社取締役営業部長)

【参加費】無料

【定員】20名(定員になり次第締切)

☎ 申込:NPO法人秋田県北NPO支援センター

TEL.0186-49-8553(担当/羽澤)

大館市 こころのあたたかさ、命のすばらしさを考える講演会

【日時】11月20日(土)10:00～12:00

【会場】秋田県北部男女共同参画センター(大館市字馬喰町)

【内容】「人生あきらめたらアカン…!～東尋坊 命の燈台守を続けて～」講師は茂幸雄さん(NPO法人心に響く文集・編集局 代表理事)

【定員】70名(定員になり次第締切)

【参加費】無料

【主催】大館市

☎ 申込:NPO法人秋田県北NPO支援センター(実施主体)

TEL.0186-49-3480

能代市 妊婦さんのための母乳育児講座

【日時】11月25日(木)10:00～12:00

【会場】能代市中央公民館(能代市追分町)

【内容】出産前に知っておきたい母乳育児の基礎知識やバースプランについて学びます。講師は菅原光子さん

【参加費】2,300円※要申込

☎ 母乳育児サークル ミルキーハグ(主催)
TEL.090-4450-2114(甲谷)

鹿角市 鹿角の昔っこのつどい

【日時】11月27日(土)14:00～15:30

【会場】関善賑わい屋敷(鹿角市花輪)

【内容】鹿角民話の会 前会長 高橋節

夫さんをしのぶ。地元に伝わる昔っことを語ります

☎ NPO関善賑わい屋敷

TEL.0186-23-7799

大館市 わらべの冬まつり

【日時】12月19日(日)

10:30～11:30(午前の部)

13:30～14:30(午後の部)

【会場】北部シルバーエリア(大館市十二所)

【内容】午前の部:グループかぜの冬のおはなし 午後の部:今野ひろ子さんによるわらべうたであそぼう

【参加費】無料

☎ 来間の会(主催)

TEL.090-2952-5405(代表/市川)

募集情報

子供語り部養成講座 かつのの昔っこ受講生募集

【日時】12月4日、11日、18日、2011年1月15日、22日の各土曜日(全5回) 10:00～11:00

【会場】関善賑わい屋敷(鹿角市花輪)

【内容】鹿角市内の語り部の方々の集い「どっとはれえの会」の協力により鹿角の伝統や民話の子供語り部養成講座。発表会を2011年1月13日(日)13:00から予定しています。

☎ NPO関善賑わい屋敷(主催)

TEL.0186-23-7799

2011年度 防災教育チャレンジプラン募集

全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、防災教育チャレンジプランを募集し、そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが出向くなどして相談などの支援を行います。

【応募資格】防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設(保育施設・幼稚園・学校等)、教育委員会、NPO、地域団体(民間事業所、各種団体、行政機関)、個人等

【表彰】防災教育大賞ほか

【申込締切】12月20日(月)

㊤防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

E-mail pinfo2865@bosai-study.net

FAX.03-3589-1703

<http://www.bosai-study.net/boshu/index.html>

「環境賞」募集

環境保全活動の発展を図り、さらには持続可能な社会の構築に資することを目的としています。

【応募対象】環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動等で画期的な成果を挙げ、または今後成果が期待される個人、法人、またはグループ

【表彰】優秀賞(副賞100万円)ほか

【応募締切】2011年1月21日(金)当日消印有効

㊤財団法人 日立環境財団

TEL.03-3257-0851

<http://www.hitachi-zaidan.org/kanky/index.html>

助成金情報

あきたスギッチファンド 第4回助成団体募集

【対象団体】秋田県内に主たる拠点を置き、自らが行う事業を1年以上継続している、または、今後継続する見込みがある団体

【対象事業】団体等が自ら企画した事業で、県内で行われる地域課題解決をめざす活動

【助成金額】<本ファンド>30万円×3件、10万円×5件<分野別>環境

保全活動10万円×1件

【応募期間】11月15日(月)~12月15日(水)

㊤ NPO法人あきたスギッチファンド

TEL.018-839-8941

※あきたスギッチファンド第4回助成事業応募説明会を開催します。

<県北地区>11月15日(月)10:30~11:30、秋田県北部男女共同参画センター研修室 TEL.0186-49-8553

子どもゆめ基金 平成23年度助成

自然体験活動、科学体験活動などの子どもを対象とする体験活動や読書活動を支援する活動へ助成します。

【助成対象】NPO、NPO法人など

【助成金額】参加を募集する規模により限度額あり

【応募締切】12月5日(日)消印有効

㊤独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部助成課

TEL.0120-579081

http://yumekikin.niye.go.jp/jyosei/taiken_boshu.html

第49回下中科学研究助成金

学校の先生方の教育のための真摯な研究を助成

【対象とする専門分野】自然、人文、その他

【対象者】全国小、中、高校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校の教員(教育カウンセラーを含む)を対象とし、研究は個人であると共同であるとを問いません。

【応募締切】12月10日(金)当日消印有効

㊤財団法人 下中記念財団

TEL.03-5261-5688

<http://www.shimonaka.or.jp/>

社会福祉事業助成

【助成内容】●社会福祉関係者の資質向上に関する研修や研究●社会福祉事業でそのテーマや内容に先駆的要素またパイロット性があるもの●事業の

目的が明確で、実施後の具体的な成果が充分期待できるもの

【助成対象】社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体など

【助成金額】助成総額2,000万円以内

【申込締切】12月15日(水)消印有効

㊤財団法人 日本社会福祉弘済会

助成事業係 TEL.03-3846-2172

<http://www.nisshasai.jp/fukusijyoseijigy/index.html>

国際協力NPO助成

開発途上国における農業、教育、医療、福祉等の問題解決のために、現地の人々とともに活動しているNPOに対して、プロジェクト費用の一部を助成してその活動を支援し、もって開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与することを目的としています。

【助成対象】NPO法人

【助成金額】プロジェクト費用総額の30%以上70%以内で、最高150万円

【応募締切】12月17日(金)必着

㊤財団法人日本国際協力財団 国際協力NPO助成担当

TEL.03-3234-7281

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/jicf/chap08.html>

環境NPO助成

「環境と経済との調和」または「環境と科学技術との調和」に資する活動を対象とした環境NPO/NGO、任意団体への助成事業を行っています。

【助成対象】NPO法人、又は3年以上の実践活動歴を有する国内の任意団体

【助成金額】150万円(上限)

【申込締切】2011年1月21日(金)

※当日消印有効

㊤財団法人 日立環境財団

TEL.03-3257-0851

<http://www.hitachi-zaidan.org/kanky/index.html>

要チェック!

「NPO法人会計基準」が策定されました!

2010年7月に策定された「NPO法人会計基準」は、今までNPO法人の会計基準が存在せず、全国のNPO法人の会計報告が千差万別となっており、非常にわかりにくいものとなっていました。そこで、一定のルールで統一して分かりやすくし、信頼と支援を得やすくするようにしよう、という理由から会計基準を作成することとなりました。

2009年3月にNPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会と、NPO法人NPO会計税務専門家ネットワークを中心とした全国18のNPO支援組織が呼びかけ人となっ

てNPO法人会計基準協議会が発足しました。会計専門家、学識経験者、助成財団、金融機関などのNPO法人会計基準策定委員会も組織され、およそ1年4ヶ月かけて、さまざまな議論を行い2010年7月に策定されました。

この会計基準は、法律ではないので強制力はありません。多くのNPO法人が採用することで、本当に基準といえるものになり、よりNPO法人の運営が円滑に進むようにとの思いが込められています。

※この会計基準策定に関する情報が、「みんなでつろう!NPO法人の会計基準」というブログで一般公開されています。

<http://npokaikei.blog63.fc2.com/>

「新しい公共と協働」推進行動指針(素案)に係るタウンミーティングが開催されました

秋田県の「新しい公共と協働」推進行動指針を策定するため、県民の意見を聞くタウンミーティングが県南、県央につづき10月26日に大館市で行われ、NPO関係者など13人が参加しました。

指針(素案)は、県民、地域活動団体(NPO、地縁組織等)、事業者、大学等の高等教育機関、行政などが地域の担い手であることを再認識し、地域づくり活動に主体的に関わるための基本的な考え方を示すとともに、こうした多様な主体が協働して「新しい公共」を創造していくことを目的としています。協働を推進するための具体的な施策策定のため「ぜひ地域でがんばっている方々からのご意見、ご提言を聞

かせてほしい」との説明がありました。

参加者からは、2006年にまとめた「協働による地域づくり活動に関する宣言書」が進展していないと指摘したうえで、永続性をもたせた協働推進員などの推奨。協働をコーディネートする人材の育成には座学だけでなく、地域に根ざした活動を横断的に実地経験することが必要など多くの意見が交わされました。

県では、年明けにパブリックコメントも実施し、意見を反映させて年度内の成案を目指すとしています。

☎ 秋田県企画振興部地域活力創造課

TEL.018-860-1237



秋田県市民活動情報ネット

秋田県の市民活動団体の情報が満載!

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>



市民活動団体等の支援

◆打ち合わせ・会議スペース ◆コピー機・印刷機の活用

◆インターネット、掲示板の活用 ◆図書・関係資料

※北部男女共同参画センターでは上記の利用ができます。利用内容によって料金がかかる場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。



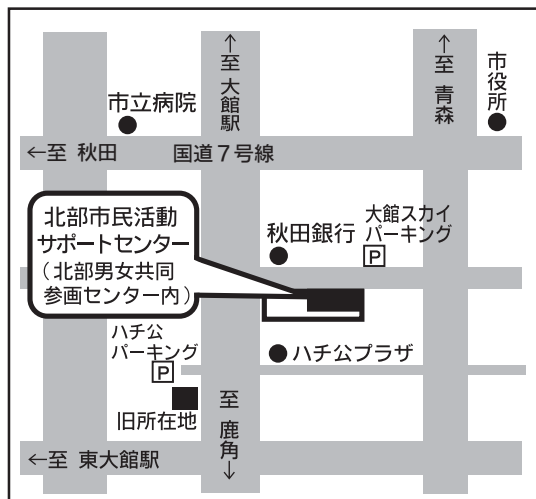
情報を募集中!

イベント・活動情報など掲載記事を募集しています。お気軽にご連絡ください。



《編集後記》

能代東中の嵯峨先生からの問い合わせがきっかけとなり実現した地域の方々への授業への参加。先生はじめご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。



「んだすな」には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成22年11月10日発行

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1

TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3873

編集：北部市民活動サポートセンター

〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町48-1

TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589

<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>

E-mail angec1@io.ocn.ne.jp

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。○この印刷物は1,500部作成し、印刷経費は1部当たり23.3円です。